

医者だけではない！メディカルスタッフによる多職種連携の力

前橋赤十字病院 心臓血管内科です。今回、多職種連携と 2021 年から開始された心不全療
法指導士に関して紹介させていただきます。

<初めに>

心不全は心臓の血液を吸い上げ、全身の臓器に送り出すというポンプ機能が上手く働かない
ことにより症状を起こします。血液が上手く体を巡らないと心臓にスムーズに戻るものが出
来ず、肺や全身に血液が溜まってしまい、“うっ血”を起こしむくみや息切れがでます。これ
に対して尿の量を増やす利尿剤などを使用して心臓の負担を取ることで浮腫みや息切れ症
状は改善します。しかし、心不全の診療はこれだけでは十分ではありません。どうして心臓
が弱ってしまったのか原因(虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、心膜疾患、不整脈等)を調べ、
治せるものは治し(カテーテル、薬物療法、心臓手術、不整脈治療等)、再増悪を防ぐという
試みが必要となります。

同様に重要なのは心臓に負担をかけてしまうきっかけ(増悪因子)を解決する事です。この中
には日々の心がけで回避できるものも多いと言われています(表 1 赤枠)。この為、心不全予
備軍(高血圧、糖尿病、動脈硬化疾患など)の方は、お持ちの病気をしっかりコントロール
し、予防として図 1 のようなことに気を付けて生活を送れば良いか、また、一度心不全にな
ったことのある患者さんの場合、どのような生活を送れば心不全の再増悪が回避出来るか、
もしも悪化してしまった場合には、悪化の徴候を早期に察知することが出来るのかを知って
いただく事が重要となります。ご自身の状況を知り未然に対処することをセルフケアと言ひ
心不全再発予防のためには重要なこととなります。

<多職種連携の重要性>

前述の通り、増悪因子は生活の様々な部分に存在しており、もはや医師だけでは適切な対応
は不可能であると考えられており、最近では多職種(看護師、保健師、理学療法士、作業療
法士、管理栄養士、薬剤師、臨床工学技士、公認心理師、歯科衛生士、社会福祉士など)に
よる多職種の方に話を聞いていただきそれぞれの分野でのアドバイスを受けることが望ま

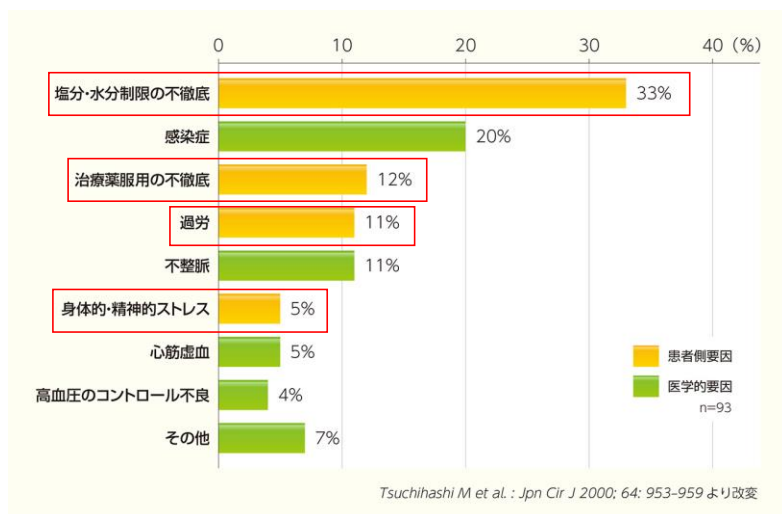
しいと考えられています。あらゆる方向から患者さんの生活を見直し、心不全悪化の切掛けを探し出し、適切な解決方法について提案させていただきます。

<心不全療法指導士制度をご存知ですか>

こういった取り組みの中で 2021 年から心不全療養指導士という制度が始まりました。この制度は、超高齢社会を迎えて心不全患者が急増している現状を踏まえ、心不全の発症・重症化予防のための療養指導を行う医療専門職に必要な基本的知識および技能など資質の向上を図ることを目的としています。心不全を数多く診療している医療機関はもちろんですが、リハビリ病院や療養施設など、急性期を過ぎた心不全患者さんを受け入れてくれている医療機関、そして退院後の在宅心不全患者さんの日々の診療をしてくださる診療所など様々な場面で幅広く活動し、心不全におけるチーム医療を展開していくことで、心不全による増悪・再入院予防、そして生活の質(QOL)の改善を図ることを目指して、多くの専門職が取得できる資格となっています。

以上、急増する心不全患者さんを現場で支えるメディカルスタッフの重要性と、新たな取り組みに関して紹介させていただきました。群馬県心不全連携協議会では、新たにメディカルスタッフが所属する部会を立ち上げ、より良い支援が出来るように心がけて参ります。心不全を発症させない、悪化させないための生活に関して分からないことがあれば、かかりつけの医療機関へご相談いただければと思います。

図 1：心不全の増悪因子



公益財団法人日本心臓財団 HP より引用改変

参考：心不全療養指導士 HP の QR コード

